

科目名 Course Name		開講年次	開講学期	曜日・時限
教育課程概説 An Introduction to Curriculum		2年	後期	別途、時間割参照
単位数	授業の形態	授業の性格		履修上の制限
2単位	講義	選択	(教職課程必修(中学校教諭二種(外国語)、栄養教諭))	英語・栄養の教職課程履修者のみ受講可
当該科目の理解を促すために受講しておくことが望まれる科目				
教職関連科目				
同時に履修しておくことが望まれる科目				
教職関連科目				
担当者に関する情報				
氏名	研究室の場所	オフィスアワー		電話番号・メールアドレス
松崎勇人	本館2階	講義のない時間		授業中に指示します
授業の概要				
教育の目的と教育課程の関係を理解する。教育課程の類型を理解し、その編成方法と評価を理解する。我が国の教育の歩みと教育課程の変遷について理解し、外国の教育課程改革の動向を理解する。カリキュラム経営について理解する。カリキュラムを作ることを体験する。				
授業の目標				
①教育課程の類型や編成方法や評価方法について述べるができるようにする。 ②日本の教育課程の編成過程や歴史や諸外国の教育課程改革の動向について述べるができるようにする。 ③カリキュラム経営について要点を述べるができるようにする。 ④日本の教育課程の課題について述べるができるようにする。				
授業の方法				
黒板やプリントを使っての説明を行う。実践事例に触れる。また、教育に関するテーマについて討論したり、基本的問題を解いて発表することを行う。講義者が、それらの学生の見解を尊重しながら、幅広い観点からそれを補い、深める。学生が自分でカリキュラムを作り、評価する活動を取り入れる。				
学習の成果(学習成果)				
(1) 教育課程の類型や編成方法等について述べ、目的に応じて使い分けることができる。 (2) カリキュラムの歴史や意義、今日的課題について述べるができる。 (3) カリキュラムを作り、それについて評価ができる。				
授業のスケジュールと内容				
第1回目	ガイダンス			
第2回目	教育課程とは何か			
第3回目	教育課程の諸側面(隠れたカリキュラム)			
第4回目	経験中心カリキュラム			
第5回目	学問中心カリキュラム			
第6回目	教育課程編成論、タイラーとブルーム			

第7回目	日本の教育課程行政の基本、個性尊重の教育課程	
第8回目	真正の評価とパフォーマンス評価、レポート課題の説明	
第9回目	教育課程の経営と評価	
第10回目	日本の教育課程改革の歴史、戦前	
第11回目	日本の教育課程改革の歴史、戦後の民主化	
第12回目	日本の教育課程改革の歴史、系統性、人間性の重視	
第13回目	日本の教育課程改革の歴史、生きる力、活用能力の重視	
第14回目	諸外国の教育課程改革の動向	
第15回目	学生による課題の発表とそれへの講評	
成績評価の方法と基準		
	評価の領域	割合
		評価の基準
授業参加態度	30%	最高水準としては、講義者の話を集中して聞き、質問に的確に答えられること、与えられたテーマについて仲間の意見を聞き、自分の考えを述べられるなどである。
レポート	70%	レポートを提出する。評価基準については講義中に述べる。
調査報告書		
小テスト		
試験		
発表内容（態度含む）		
その他		
教科書と参考図書		
教科書：田中耕治他著、『新しい時代の教育課程』、有斐閣、1,900円+税、及び自作プリント等を使う。参考書は講義内で指示する。		
履修上の留意点・ルール		
休まないこと。真剣な態度で講義に臨むこと。私語をしない。積極的に質問すること。		

科目名 Course Name		開講年次	開講学期	曜日・時限
教育課程概説 An Introduction to Curriculum		1年	後期	別途、時間割参照
単位数	授業の形態	授業の性格		履修上の制限
2単位	講義	必修	(必修 (保育士養成課程・幼稚園教諭2種))	児童フィールド
当該科目の理解を促すために受講しておくことが望まれる科目				
幼稚園教諭免許状、保育士資格取得に必要な科目				
同時に履修しておくことが望まれる科目				
幼稚園教諭免許状、保育士資格取得に必要な科目				
担当者に関する情報				
氏名	研究室の場所	オフィスアワー		電話番号・メールアドレス
藤原保利	本館2階	水・木・金の9時から16時 (授業時間は除く)		授業中に指示します
授業の概要				
「幼稚園教育要領」、「保育所保育指針」が示す教育(保育)内容、教育・保育課程の変遷、教育・保育課程の編成の要件と手順、指導計画とその作成、教育・保育の評価などについて講義し、幼児の「生きる力」を育むカリキュラムの方向性を考える。				
授業の目標				
○教育課程・保育課程、指導計画の意義、編成、作成の手順を修得することができるようにする。 ○戦前並びに戦後の教育・保育課程の変遷について基本となる知識を修得することができるようにする。 ○教育課程の類型についての知識を修得することができるようにする。 ○教育課程、保育課程の評価の意義を認識し、「生きる力」を育むカリキュラムの基礎を修得することができるようにする。				
授業の方法				
基本的に板書並びに配布したプリントを中心とした講義形式で行うが、「調べる・考える学習」を導入し、グループ・ディスカッションなども行う。単元終了時に小テストを行う。レポートの提出を求める。				
学習の成果(学習成果)				
○教育課程・保育課程、指導計画の意義、編成、作成の手順を修得し、日々の実践に活用することができる。○戦前並びに戦後の教育・保育課程の変遷についての知識、並びに時代時代の特徴を捉えて、今日の「幼稚園教育要領」、「保育所保育指針」に新たな視点を持つことができる。○教育・保育実践の評価の意義、評価の方法を正しくとらえ、「生きる力」をはぐくむ教育・保育の充実につなげることができる。				
授業のスケジュールと内容				
第1回目	ガイダンス 授業の概要と授業の進め方の説明 評価基準の説明 レポートのテーマと提出期限等について説明			
第2回目	「幼稚園教育要領」が示す教育・保育内容について 幼稚園教育の基本、目標、領域とねらい・内容			
第3回目	「保育所保育指針」が示す保育内容について 保育内容の基本原則、原理、構成			
第4回目	教育・保育課程の変遷について 明治期における幼稚園及び託児所の保育内容について			
第5回目	教育・保育課程の変遷について 大正期、昭和期(敗戦まで)における幼稚園及び託児所の保育内容について			
第6回目	教育・保育課程の変遷について 戦後新教育から見た教育・保育内容 講和独立後における教育・保育内容			

第7回目	教育・保育課程の変遷について 「幼稚園教育要領」、「保育所保育指針」の変遷について	
第8回目	教育課程・保育課程の意味 教育課程・保育課程とは何か 教育課程・保育課程編成の原理(スコープ及びシーケンスの選択基準)	
第9回目	教育課程・保育課程の意味 教育課程の類型(教科カリキュラム、経験カリキュラム)	
第10回目	教育課程・保育課程の意味 教育課程の類型(相関、融合、広領域、コア、潜在的、エマージェントの各種カリキュラム)	
第11回目	教育課程・保育課程編成の要件と手順 教育課程・保育課程編成の要件 教育課程・保育課程作成の手順	
第12回目	指導計画とその作成 教育・保育課程と指導計画 指導計画の位置づけ、特性、ねらいと留意点	
第13回目	指導計画とその作成 長期の指導計画と短期の指導計画の実際 保育の展開における指導計画の位置づけ	
第14回目	教育・保育の評価 評価の意義 評価の形態 評価の対象 評価の時期	
第15回目	教育・保育の評価 記録の意義 記録の目的・原則 計画、実践、反省・改善と記録	
成績評価の方法と基準		
評価の領域	割合	評価の基準
授業参加態度	10%	授業で使われる教材を準備して臨んでいる。ディスカッションの場面で自分の意見を述べる。授業に集中し、ノートをきちんととっている。不明な点があれば、積極的に質問する等々。(詳細はガイダンス時に説明)
レポート	20%	詳細に課題を探究し、内容構成もしっかりとしており、課題の要件を十分に満たしている。
調査報告書		
小テスト	20%	単元終了時に小テストを実施する。授業内容や教科書に書かれている内容が十分に表現されている。
試験	50%	論述式である。設問に対する要求を満たし、内容構成もきちんとしており、更に、授業内容及び教科書等に書かれている範囲を超えて、自分の考え方も示されている。(詳細はガイダンス時に説明)
発表内容(態度含む)		
その他		
教科書と参考図書		
使用テキスト: 「幼稚園教育要領」、「保育所保育指針」 参考図書: 太田悦生編「新・保育内容総論」(株)みらい		
履修上の留意点・ルール		
意欲的、積極的に授業に臨むこと。遅刻厳禁。飲み物等持ち込み禁止		